

日頃から防災意識を高める

「稲むらの火」の一斉点灯訓練

6/26 月



津波避難の目標灯として市内 28 小中学校に設置している、「稲むらの火」の一斉点灯訓練を実施しました。大きな地震が起きた際は、自動点灯し、夜間・停電時の津波避難の目標となります。災害はいつ発生するかわかりません。私たち一人一人が日頃から防災意識を高めることが大切です。

ごみを拾って海をきれいに

リフレッシュ瀬戸内事業

6/18 日



リフレッシュ瀬戸内事業とは「受け継ごう きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉に、6月1日から8月31日までの間、瀬戸内海沿岸各地で一斉に行う海岸清掃活動です。当日は、300人を超える参加者らが、ゴミ袋と火ばさみを持ち、加太海水浴場周辺の海岸に落ちているゴミを拾いました。暑い日が続きますが、きれいになった浜辺で夏を楽しんでいただければと思います。

交流が深まっています

リッチモンド市長表敬訪問および植樹式
リッチモンド市学生訪日団の学生間交流

6/17 土
7/4 火



和歌山市とカナダのリッチモンド市は、姉妹都市を提携して今年で50周年を迎えました。6月17日には、マルコム・ブローディー市長を団長とする7人の訪問団が本市を訪れ、汀公園に友好の証として楓の木の植樹を行いました。また、7月4日には、14人の学生訪問団が市立和歌山高等学校を訪れ、学生らは、折り紙で鶴を折ったり、味噌汁を作ったりするなど、日本の文化に触れました。これからも交流を深め、両市の絆が更に強くなっていくことを願います。

男女共生コラム

男女共同参画の視点からの防災

9月1日は防災の日です。

私たちの地域には、様々な人々が暮らしています。

地震や水害等の災害時には、地域の人たちが力を合わせて助け合うことが不可欠です。

災害対策においては、高齢の方、障害がある方、乳幼児、妊産婦、外国人等、すべての人の人権への配慮をする人権尊重の視点が必要です。また、女性と男性が災害から受ける影響やニーズの違いに配慮するとともに、性的少数者への配慮を行うなど、男女共同参画、ジェンダー平等の視点を取り入れる必要があります。災害時に男女共同参画の視点から取り組むことができるように、日ごろからお互いを知る機会を持ち、何かを決める時は、どんな人も意見や要望を言える・聞けるような関係づくりを心がけてみましょう。

男女共生推進センター“みらい”

- 悩みごとの電話相談 ☎431-5528
- 会議室・図書などの貸出 ☎436-8704